

第5回江南市地域福祉計画及び 江南市地域福祉活動計画合同策定部会 記録

日時 平成 29 年 8 月 25 日 (金)

午前 9 時 30 分 ~ 11 時

場所 市役所 3 階 第 3 委員会室

1. 施策体系の見直しについて (資料No.1)

説明：土屋 (ジャパン総研)

質問及び意見：なし

2. 重点プロジェクトについて (資料No.2)

説明：大池 (福祉課)

質問及び意見

(清水委員)

- ・項目に「専門職養成」とあるが、新たな専門職を養成するということか
→新たな専門職を養成するということではなく、様々な分野の専門職が地域福祉の視点を持てるように働きかけていくということ
→今後は地域ケア会議等で専門職が地域と一緒に問題解決や地域づくりを行っていく機会が増加することが想定されるため地域福祉の視点を持つ必要がある

(貝瀬部会長)

- ・専門職養成ということで、今後は地域活動の中心となり、活動主体者同志をつなげていく、コーディネーターの役割を担う人が新たに必要となってくると考えられるが、新たな人材の掘り起こしや育成についてはどのように考えているか。
→今後は必要性が出てくるかもしれないが、現時点での配置は想定していないため、既存の専門職への働きかけを優先的に行っていく

(事務局から補足)

- ・項目に「CSW」とあるが、「コミュニティ(C) ソーシャル(S) ワーカー(W)」の略称であり、地域福祉の専門職として、個別支援では地域と一緒に問題解決を進めながら、地域づくりも合わせて行っていく事例もある(長久手市など)

3. 地域福祉計画・活動計画骨子案について (資料No.3)

説明：土屋 (ジャパン総研)

質問及び意見

(清水委員)

- ・P29の車いすマークが適切かどうか
→検討して差し替える
- ・P39の「市民・地域はこんなことからはじめてみよう」の内容表現について再度検討が必要ではないか(興味・関心のない人への具体案を示すなど)

→意識醸成を高めるような表現を検討する

→（貝瀬部会長より）関心のない人は情報を入手しないことは想定される、ただし4つの基本目標の「心」「人」「しくみ」「環境」は横並びではなく、段階的に「心（意識醸成）」が「人づくり」となり、人づくりが「しくみ」となり、しくみが「環境」につながっていくことと考えられるため、地域によってどの段階（入口）かは異なるため、ここでは意識醸成につながるような表現を検討していく

- P43の「市民・地域はこんなことからはじめてみよう！」と「社協の取り組み」に記載している「意見交流会」の内容の違いはあるか
→再度、表現を検討していく
- P66～67の防災の項目で「自助」「共助」「公助」とあるが、他の分野では「互助」の記載があるため追記が必要ではないか
→（松本委員より）防災の観点では「自助」「共助」「公助」が3本柱であり、「互助」はないため、防災の「共助」が計画上の「互助」にあたる
→（貝瀬部会長より）計画上の「共助」は制度化された扶助であり、防災にはこの制度化された扶助はないため、「共助」「互助」の表記は検討していく
- 計画に記載される取り組みについて、財政の裏付けがないと絵に描いた餅になるのではないか
→今後、取り組み内容を精査する中で検討していく

（大森委員）

- 読み手（市民）の立場では、語句（例：コミュニケーションツール、社会資源、総合事業等）の説明が必要だが注釈等の記載はあるか、あるならどれぐらいのボリュームか
→注釈として記載する予定だが、ボリュームは今後精査していく

（平野委員）

- 公共交通会議では、外出するためには、目的と手段が必要と言われている。P61の外出支援で「市民・地域はこんなことからはじめてみよう！」に「買い物や喫茶店に行く人は一緒に声をかけあって外出する」などを追加してはどうか。
→意見として記載の検討を行う

（貝瀬部会長）

- P21のアンケート調査やヒアリング結果はどのように記載されるか。
→資料1の課題マトリックス表の上段の全体項目を基に記載する予定

4. その他

- 本日の議事について追加の意見等があれば9月8日（金）までに事務局へ連絡
- 素案は8月30日策定会議、9月末に策定委員会に諮る予定
- 次回の合同部会は10月下旬を予定
- 社協より「第9回ふくし江南ふれあいまつり」のチラシ配布及び説明

午前11時終了